
まーしー（新潟県三条市 横山昌佳）より

最近、俳句を嗜んでいる。いつでも、どこでも詠めるし、レシートの裏にも残せる。お金も掛からない。下手でもまァ別にかまわないし、コレハと思うものができれば、その日一日いい気分でいられる。

さて、バード・ウォッチングには双眼鏡があればいいし、ひのきの棒があれば冒険に出られる。俳句には歳時記である。これには季節ごとの言葉とその意味、用例が載せられていて、ぱらぱらとめくっているだけで楽しい。

先日、この歳時記をめくっていたら、「まくなぎ」という語を見つけた。夏の小菅村で、目の周りにやたらと寄ってくるアシである（はるちゃんは目虫と呼んでいた）。この「まくなぎ」の語から、まざまざとあの川辺が眼前に蘇ってくる。はねる水しぶき、木漏れ日、ヤマメの背、ぐっしょり濡れたTシャツを日光と焚き火でじわじわと乾かすあの真昼……

まくなぎも眩しさ思ふよすがとし